火焔型土器に十日町市のルーツを見た。

郷土史家 佐野 良吉 氏

1950年代後半、私は十日町市の公民館主事と青年学級の郷土史コース考古班の講師を兼任していました。その考古班のメンバー内で、どうやら笹山の畑の脇に積んである石山の中に土器が混じっているらしいという話が出て、調査をはじめたのです。石山からは大きな石皿や石器が見つかり、調べると縄文中期から後期のものでした。その内容を青年学級の報告書としてまとめたのが笹山遺跡の記録の始まりです。

それから、1980年～1986年にかけて実施された発掘調査により火焔型土器が出土しました。1999年に国宝に指定された「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器」57点のうち14点が火焔型土器です。

火焔型土器はそれまで越後地方にはなかった技法が使われていると言われています。①上に向かって朝顔のように開いている独特の形は東北地方、②上部にある大きな飾りは富山・石川地方、③紐や棒状の模様が主体で縄文による装飾が見られないのは長野・山梨地方と、それぞれの地方に見られた技法です。私見ではありますが「周辺の技法をミックスして全く新しい独自のものを作ったのではないか」「その文化交流をつないだのが信濃川だったのではないか」と考えています。大地の芸術祭の里である十日町市のルーツとも言える火焔型土器。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの聖火台のモチーフにする運動も盛り上がっています。この成り立ちに誇りを持つとともに、若い人たちには、研究を深めながら次世代につないでもらいたいものです。

I found the origins of Tokamachi City in the flame-shaped earthenware vessels.

The flame-shaped earthenware vessels can be regarded as the origins of the Echigo-Tsumari Art Field, Tokamachi City. The movement to use the earthenware as the motif for the cauldron for the Tokyo Olympic and Paralympic games in 2020 is gathering momentum. It is my hope that the young people would have pride in our origins and that they would pass them on to future generations, whilst deepening their studies.

Ryokichi Sano
local historian

从火焰型陶器看十日町市的历史。

火焰型陶器可以说代表着大地艺术节的举办地__十日町市的历史渊源。把该陶器的形状应用到2020年开幕的东奥会和残奥会的火炬台的设计中去的呼声也正在不断地高涨。我们要对乡土的历史充满自豪的同时，也应通过深化研究让年轻的一代把我们的历史继续传承下去。

乡土史家 佐野良吉

プロフィール●profile

市内稲荷町在住。宇都宮高等農林農学部（後の宇都宮大学）時代に召集され、神奈川県大磯町で終戦を迎える。後に学校を中退して、「五・一五事件」で有名な橘孝三郎氏が主催していた水戸市「愛郷塾」で学ぶ。1950年より県教育庁社会教育課公民館係。1954年より十日町市公民館主事に採用され、青年学級考古班の講師になる。以後、郷土史や民俗学に取り組み、十日町市史や十日町市博物館の発行物などの編集に携わる。

十日町市の文化・風土を守り伝えたい。

建築デザイナー カール・ベンクス 氏

私が知人に誘われて旧松代町室野（竹所）に来たのは、ほくほく線の開通前、バブル期のころでした。街から離れた山あいに田んぼが広がる小さな集落。静かだけど全然さびしくない場所という印象でした。雪が多く自然が豊かで、歴史や文化もある。その土地や風土に育まれた古民家も残っている。意外と東京へのアクセスもいい。ほとんど一目ぼれでこの土地を気に入り、竹所にあった空き家を再生して住むことに決めました。

以来20余年、その間に十日町市は合併して大きくなり、私は建築デザイナーとして県内外で古民家を再生し続けてきました。最近、十日町市は「元気」が出てきていると思います。都会の人や若い人が訪れるようになり、移住してくる人も増えています。住民の皆さんも「田舎だけどいいところ」という誇りを持つようになってきました。自然、農業、食文化、歴史、風土など、太古から育んできたものが持つ本来の豊かさに気づいてきたのではないでしょうか。今後も、十日町市の豊かな資源を守りながら、新しいカタチのまちづくりに挑戦していってほしいですね。

「古い家のない町は、思い出のない人と同じです」とは、東山魁夷が私にくれた言葉です。古い＝価値がないのではありません。古い家や街並みは、歴史や人々の思いがつまった、単なる〝モノ〟以上の存在なのです。私自身も、大好きな十日町市で、世界に誇れる日本文化の素晴らしさを後世に残し伝えたいと思います。

I wish to protect and convey the culture and climate of Tokamachi City.

I think perhaps the city has recognised its innate richness that has been nurtured since ancient times, such as nature, agriculture, food culture, history and climate. In so doing, the old houses and streets have become something more than mere "things", filled with history and the thoughts of the people.

Karl Bengs
Architect

保护传承十日町市的文化与地方特色。

我想很多人都认识到了祖先留给我们的自然、农业、饮食文化、历史、地方特色所具有的丰富内涵，特别是古民宅和城镇人文景观是历史和人类文化的结晶，已经超出了一般所付与的“物”的概念。

建筑设计家 Karl.Bengs

プロフィール●profile

ドイツベルリン生まれ。家具職人の父の影響を受け、日本文化に関心を持つ。ベルリン・パリで建築デザインオフィスに勤務しながら、建造物・家具の復元修復を学ぶ。1966年、空手を学ぶために日本大学に留学。以降建築デザイナーとしてヨーロッパや日本で活動。特に日本の民家に強く引かれ、ドイツに移築する仕事に携わる。1993年、市内竹所で現在の自宅(双鶴庵)となる古民家を購入、再生に着手。現在、カールベンクスアンドアソシエイト有限会社代表。

十日町市の、外からのモノやヒトを受け入れるおおらかさは「宝物」です。

カフェ&ドミトリー 山ノ家 代表 **池田 史子** 氏

当初、デザインやコンセプトづくりのお手伝いで、松代の空き家を再生して何かを始めようというプロジェクトに関わり始めましたが、最終的には「山ノ家」のオーナーとして事業を進めて行く立場となりました。そして、東京の仲間や知人、松代の皆さんの力を借りながら、2012年の夏にオープンしました。松代特産の食材を使った創作料理と宿泊スペースの提供をベースに、地域の魅力を生かした農業体験や自然体験、アートワーク製作などのワークショップも開いています。また、地域の方々が家開きをして来訪者をもてなす「茶もっこ」の風習を新しい祭りとして復活させることやかまくら体験などを、地域の人と共に取り組んでいます。

「旅人」として訪れていた大地の芸術祭。2015年には「つくり手」として参加しました。奴奈川キャンパスの学食の企画・運営で、郷土料理と創作料理、サトごはんとマチごはんのコラボレーションという試みです。感慨深いものがありました。

十日町市には、縄文時代から綿々と続く素晴らしい「宝物」、文化・伝統・芸能・食などがあります。そして、新しいモノやヨソモノをまず受け入れるという、やさしく懐深いおおらかさがある。ありがちな雪国の閉鎖的で暗いイメージとは真逆です。大地の芸術祭参加アーティストや若い移住者が増えてきているのは、十日町市に懐の深さ、感受性の高さ、温故知新の気風があるからだと思います。この貴重な「宝物」を守りながら、まちとしてポテンシャルの高さをどんどんアピールしていってほしい。「山ノ家」もその一助になればと思っています。

The open-heartedness of Tokamachi City of accepting things and people from the outside is precious.

I think the reasons why there has been an increase in the number of artists participating in the Echigo-Tsumari Triennale and young people moving into the region are due to Tokamachi City's huge generosity, high sensitivity and spirit of discovering new things by taking lessons from the past. I hope that the city will actively call attention to its great potential, whilst protecting these treasures.

Fumiko Ikeda
Representative, Café Dormitory Yamanoike

热情接纳来自外部的人和物的宽广胸怀
是十日町市的宝贵财富。

我认为参加大地艺术节的艺术家和移居年轻人增加的原因是十日町市民拥有宽广的胸怀、高度的艺术休养、温故知新的精神。我们在保护这些宝贵“财富”的同时，也应该不断地宣传我市所具有的巨大潜力。

咖啡厅＆旅馆“山之家”经理　池田史子

プロフィール●profile

市内松代／東京都江東区在住。デザインプロダクションの会社、(株)ギフト・ラボを東京で運営しながら、2012年の夏、まつだい駅近くの街道沿いに、「カフェ&ドミトリー 山ノ家」をオープン。都市と地方、都会と田舎を、しなやかに行き来しながら、“ダブルローカル”をコンセプトに地域資源の新しい形での企画・編集・発信に取り組んでいる。2014年秋には、東京の清澄白河にある古ビル1階に「GARAGE（ガレージ） Lounge&Exhibit（ラウンジ アンド エキシビット）」をオープン。

地域を守り続ける意思と行動が、今こそ必要です。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」総合ディレクター **北川 フラム** 氏

2015年、6回目の大地の芸術祭が開催されました。国内外からの参加アーティストや来訪者が回を重ねるごとに増え、ジャンルも音楽やパフォーマンス、映画、建築、土木、食、農業などと広がりを見せています。会期中には、台湾・香港・韓国・中国、その他アジアの地域から50を超える連携、協働の申し込みがありました。今や、アジアはもちろん世界から「21世紀型の新しい芸術」として注目されるまでに成長しました。

集落単位で見れば、大地の芸術祭を機に「集落に元気を取り戻そう」「自分たちで何かはじめよう」という、集落の『意志』や『エネルギー』の発露が見られるところも増えました。県外や海外から訪れる人々との交流を楽しむ余裕も出てきています。これは、『成熟』と言えるでしょう。しかし、根本的な問題（集落内での意志の不一致や進む過疎化、習慣、地域性など）があるがゆえに、なかなか前に進めない集落も散見されます。また、世代間のつながりや集落間の連携がうまく作れていない側面もあり、地域づくりの持続性・発展性という観点から見れば、取り組むべきことは山積しています。

意志なきところには、何も生まれません。地域の厳しい現状に対して、展望を描き、声を上げ、内外の人々を巻き込み、地域を守り続けようとする。そのような意志と行動＝「本質的なところでの地域づくり」が、今こそ必要なのだと思います。

ジミー・リャオ「Kiss & Goodbye（土市駅）」
(Photo by Gentaro Ishizuka)

蔡國強「蓬莱山」
(Photo by Osamu Nakamura)

磯辺行久「土石流のモニュメント」
(Photo by Gentaro Ishizuka)

The intention and action of continuing to protect the region are what we need now.

Against the harsh realities in the region, one must have vision, raise one's voice, involve people from within and without, and continue to protect the region. I believe that that sort of will and action, i.e., the most fundamental community renovation, are what we need now.

Fram Kitagawa
Director, Echigo-Tsumari Triennale

现在最需要的是我们保护地方的意愿和行动。

面对地方的严酷现实，我们要以实际行动去描绘未来，振臂高呼，唤起人们的行动去保护好地方。这样的意愿和行动＝“真正地去发展地方经济”，我认为这是现在最需要的。

“大地艺术节 越后妻有Art Triennial”综合负责人　北川 FURAMU

プロフィール●profile

新潟県上越市生まれ。東京藝術大学卒業。アートディレクター、㈱アートフロントギャラリー代表。主なプロデュースとして、「アントニオ・ガウディ展」(1978-1979年)、「子どものための版画展」(1980-1982年)、「アパルトヘイト否！国際美術展」(1988-1990年)など。「大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ」、「瀬戸内国際芸術祭」、「いちはらアート×ミックス」などの総合ディレクターを務める。